

みんなで調べよう！福井県産つばめの巣2024 調査報告書

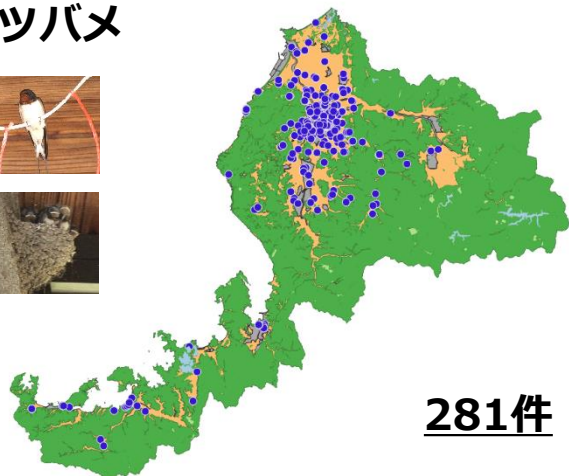
2024年の調査では期間中(2024年5月15日～8月31日)に288件の巣情報の報告がありました。
重複データ等を除いた福井県内と石川県加賀市の275件のデータを解析しました。

つばめ3種の 巣の分布

●ツバメ

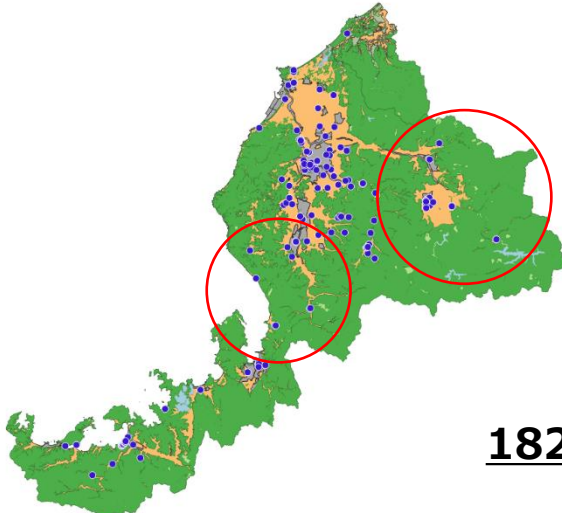


2022年 (計378件)



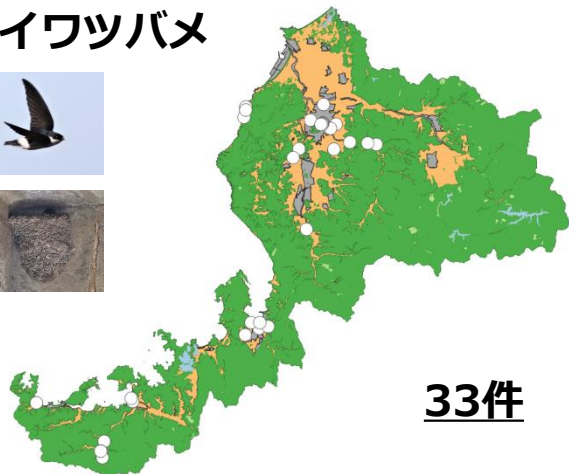
281件

2024年 (計275件うち不明5件)

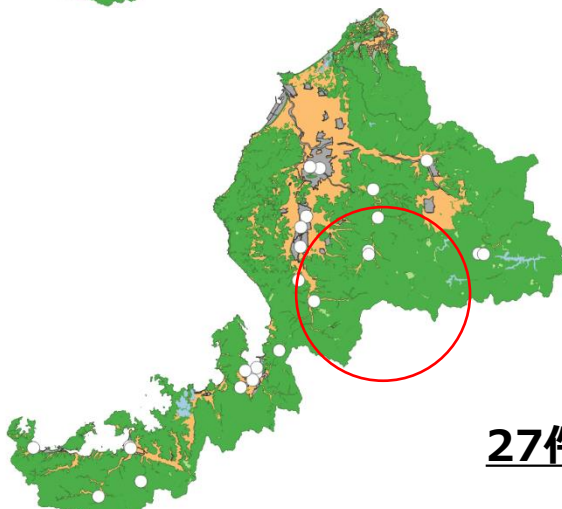


182件

○イワツバメ

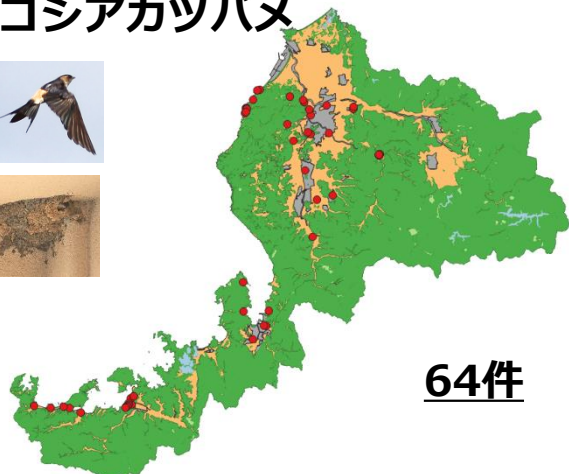


33件

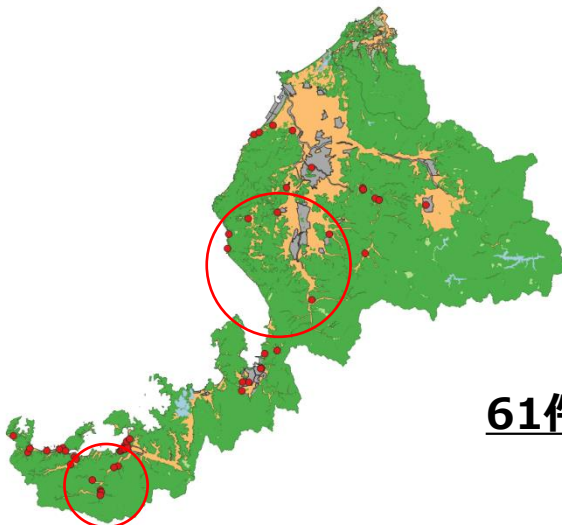


27件

●コシアカツバメ



64件



61件

- ・ ツバメ:2022年の調査では、巣の周辺に住宅地や農地だけでなく、河川も広がっていることが分かりました。記録の少なかった奥越地方および山間部からも2024年の調査では情報が寄せられました(赤枠)。
 - ・ イワツバメ:2022年の調査では情報が平野部に偏っていましたが、2024年の調査で山間部にも生息していることが分かりました(赤枠)。
 - ・ コシアカツバメ:平野部や海岸部に加え、山間部にも生息していることが分かりました(赤枠)。
- 2年分のデータからつばめ3種は県内の海岸から平野、山間部まで広く生息していることが分かりました。

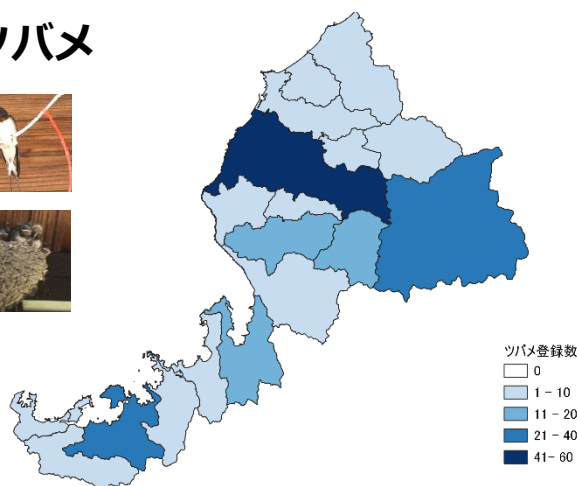
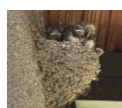
市町別の登録数



3種とも福井市と小浜市で登録数が多かったです。種類によっては登録がない市町もありました。このデータは各市町の人口や調査参加者の頑張りに左右されるため必ずしも各種の多い・少ない・いないを示していないことに注意が必要です。

- ・ **ツバメ**:福井市で最多の56件、小浜市で34件でした。全ての市町で登録がありました。
- ・ **イワツバメ**:敦賀市で最多で7件、次いで福井市で4件、他の市町では0～3件でした。嶺北地方と嶺南地方で登録数に差がないのが特徴でした。
- ・ **コシアカツバメ**:小浜市で最多の19件、次いで福井市で12件でした。他の2種と異なり、嶺北地方よりも嶺南地方で多くの登録がありました。

● ツバメ

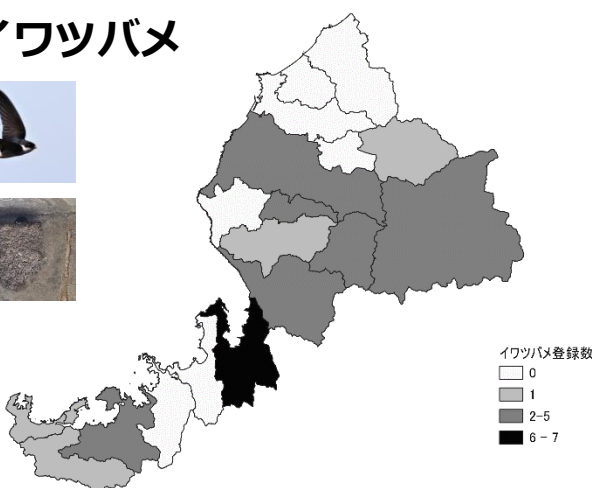


嶺北地方 登録数	
福井市	56
あわら市	2
坂井市	9
永平寺町	1
勝山市	3
大野市	21
鯖江市	9
越前市	11
池田町	12
越前町	4
南越前町	3
計	131

嶺南地方 登録数	
敦賀市	12
美浜町	1
若狭町	1
小浜市	34
おおい町	1
高浜町	1
計	50

石川県 登録数	
加賀市	1
計	1

○ イワツバメ

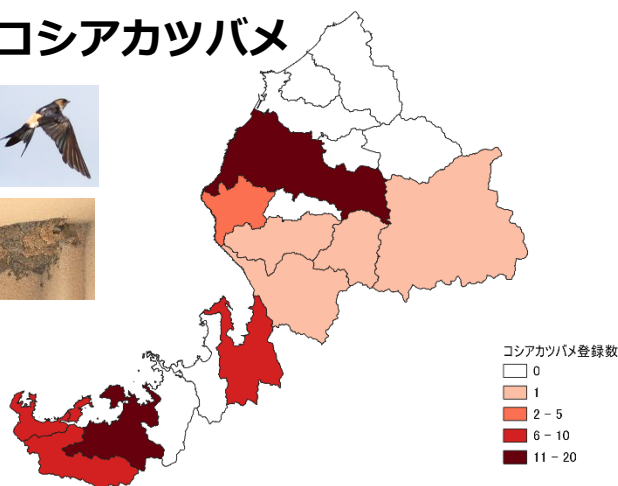


嶺北地方 登録数	
福井市	4
あわら市	0
坂井市	0
永平寺町	0
勝山市	1
大野市	3
鯖江市	2
越前市	1
池田町	2
越前町	0
南越前町	2
計	15

嶺南地方 登録数	
敦賀市	7
美浜町	0
若狭町	0
小浜市	3
おおい町	1
高浜町	1
計	12

石川県 登録数	
加賀市	0
計	0

● コシアカツバメ

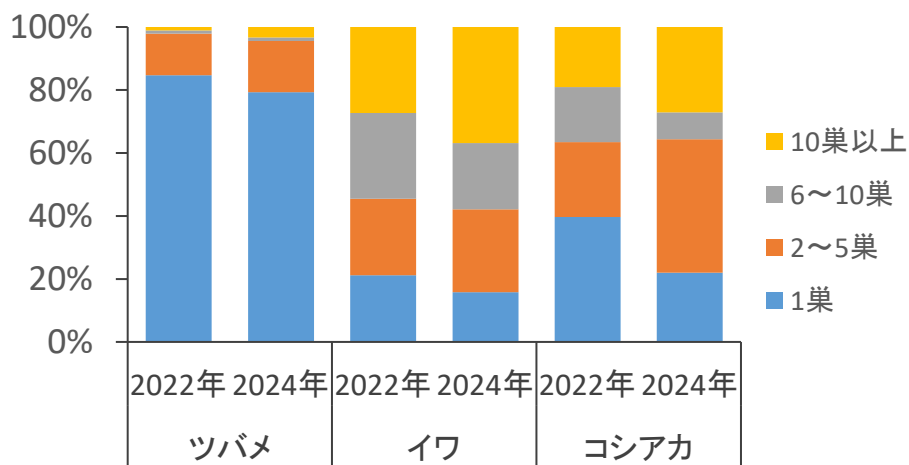


嶺北地方 登録数	
福井市	12
あわら市	0
坂井市	0
永平寺町	0
勝山市	0
大野市	1
鯖江市	0
越前市	1
池田町	1
越前町	4
南越前町	1
計	20

嶺南地方 登録数	
敦賀市	8
美浜町	0
若狭町	0
小浜市	19
おおい町	7
高浜町	7
計	41

石川県 登録数	
加賀市	0
計	0

Q. 建物一軒あたりの巣の数はいくつでしたか？



3種間で違いが見られ、各種とも2年の結果は傾向が一致した。

ツバメ：

2年間通して建物1軒に対して1巣の割合がほとんど(単独営巣)でした。

イワツバメ：

2年間通して2巣以上の割合が高かった(集団営巣)です。



◀調査参加者から寄せられたイワツバメの集団営巣の写真。8巣が写っている。

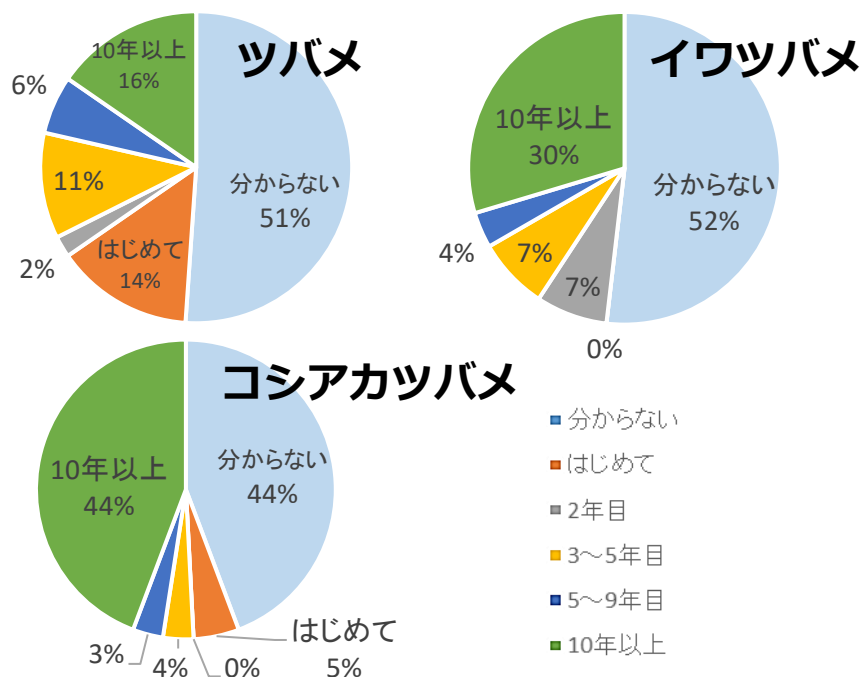
コシアカツバメ：

2巣以上の集団営巣が6～8割占めるが、1巣も2～4割あり、ツバメとイワの中間的(単独・集団営巣)でした。



◀調査参加者から寄せられたコシアカツバメの集団営巣の写真。6巣が写っている。

Q. その場所ではいつから繁殖していましたか？(2024年)



3種とも“分からない”が約過半数を占めたが、3種間でわずかに違いがありました。

ツバメ：

他種と比べはじめてや3～5年目の割合が高く、“10年以上”の割合が低かったです。



◀調査参加者から寄せられた10年以上繁殖を続けている場所のツバメの巣の写真。年ごとに巣が上につくり加えられ、何重にもなっている。

イワツバメ：

本種のみ“はじめて”が0%であった。“10年以上”が高い割合を示しました。

コシアカツバメ：

“はじめて”が5%ありましたが、“10年以上”は約過半数を占めました。

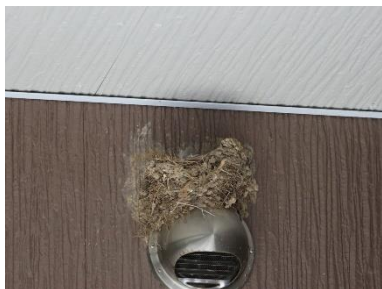
➤ 単独営巣の傾向が強いツバメははじめての割合が高く、一方で集団営巣の傾向が強いイワツバメは10年以上の割合が高く(コシアカツバメは営巣習性、繁殖歴共に両種の間)、単独か集団かの営巣習性と繁殖歴には関係がありそうでした。

調査参加者から寄せられた写真（一部）

ツバメ

通気口や電灯、管、電子機器などの構造物を足掛かりに巣をつくる場合と木材やレンガ調など凹凸のある壁に直接巣をつくる場合とが見られました。その他、何層にも積み重なった巣、営巣中で下にフンが落ちてくる旨、注意喚起を促す写真もありました。写真からは集団営巣の様子は不明でした。

通気口の上



電灯の上



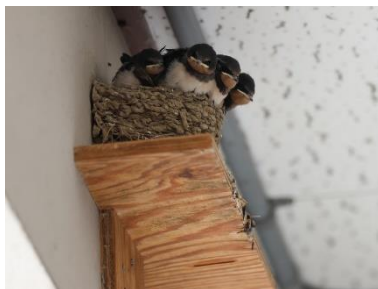
木材



レンガ調の壁



人によるサポート



管の上



電子機器の上



リフォームされた巣



注意喚起



イワツバメ（9件）

コンクリート製の橋桁や、高架橋と思われる構造物へ集団で営巣している写真が多かったです。特に河川の橋桁の巣は撮影が難しいため、全体的に本種の写真は少なかったです。

一 巣



二 巣



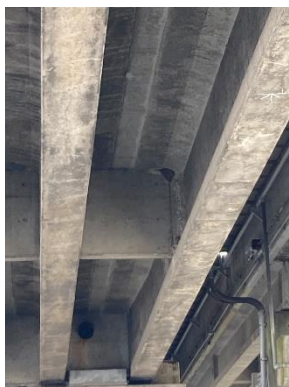
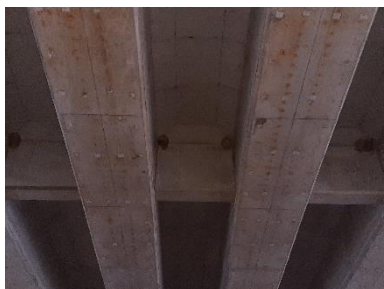
・



八 巣



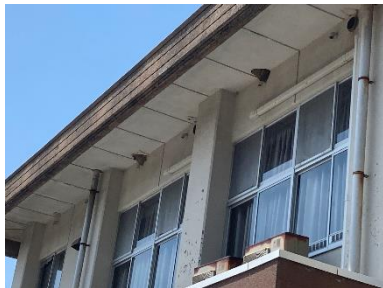
橋桁・高架端



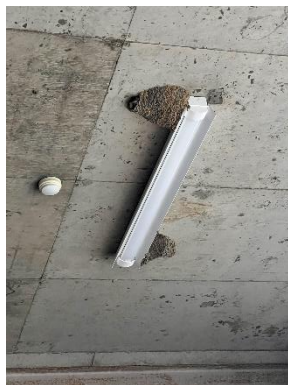
コシアカツバメ

集団または単独営巣が写真からも伺えました。壁にし字型につくられた巣の他、構造物の上にも見られました。二つの巣が隣接し、出入り口が二つに見える巣もありました。

集団営巣



単独営巣



構造物の上

構造物の上



出入り口が二つ

